

第1回 浜坂病院あり方検討委員会資料

公立浜坂病院の現状及び これからの浜坂病院の方向

平成30年10月20日

公立浜坂病院あり方検討委員会

目次

1. 浜坂病院の現状について
2. 国の社会保障制度改革について
3. 新温泉町の財政状況
4. 新温泉町などの将来人口推計
5. 浜坂病院の今までの取り組みの紹介
6. 浜坂病院の新体制への移行について
7. 浜坂病院の財政状況
8. 病院の経営健全化の取り組み

1 浜坂病院の現状について

浜坂病院の概要

(1) 浜坂病院の概要

- ア. 施設概要
- ①設置：昭和 57 年（築 36 年経過）
※最近の施設修繕
平成 28 年度：2 階病棟トイレ改修工事 12 百万円
病院正面外壁改修等工事 14 百万円
平成 29 年度：エレベータ改修工事 29 百万円
平成 30 年度：院内空調設備工事 120 百万円
 - ②病床数：H30 年 1 月より 55 床 → 49 床
（一般 33 床、地域包括ケア病床 16 床）
※地域包括ケア病床は 3 月から適用
 - ③主な診療科：（常勤）総合診療科、整形外科、
（非常勤）耳鼻咽喉科、小児科（専門外来）
※眼科（院内開業）
 - ④医療機器：一般撮影装置（ポータブル装置含む）、
C T（64 列）、透視、超音波装置、生化学分析装置等

イ. 医療スタッフ（職員数）（単位：人）

	H 3 0 . 7		H 3 0 . 7
医師（常勤）	5	検査技師	3
看護師	28	理学療法士	3
薬剤師	2	管理栄養士	1
放射線技師	4	計	46

(2) 浜坂病院を取り巻く環境

ア. 鳥取地域等とのつながり

- ①新温泉町は、古来、買物等の日常生活は鳥取で行うなど、経済・文化的なつながりが深く、生活圈域は鳥取地域と一体である。
- ②今般、浜坂道路の整備で時間距離が更に短縮され、浜坂道路 2 期道路が完成すれば、救急車で鳥取まで 19 分程度の至近距離となる。
- ③香住町や豊岡市等の近隣市町との関係は、県内自治体であることから行政的なつながりとして、ゴミ処理等の広域行政事務の取組みが中心である。

イ. 医療的な連携

- ①救急車等は鳥取県内の基幹病院等へ、ドクヘリでは豊岡病院へ搬送されている。
- ②新温泉町内の医師等からの紹介は、基本的に鳥取県内の基幹病院へ行われている。

(3) 地域との信頼関係の構築

①これまで美方郡医師会との連携等の取組みが弱く、地域の浜坂病院への信頼は希薄である。救急の応急処置等も万全でなく、即座に管外の基幹病院に搬送されていた。

②このため4月より、(新体制への移行後)地域や消防隊との連携を深め、救急担当医師を当番制で配置し、救急対応の強化・迅速化を図り地域との信頼関係の構築に努めている。

③更に基幹病院(特に鳥取県立中央病院)への紹介・逆紹介の取組みを図り、地域や基幹病院との信頼関係の構築に努めている。

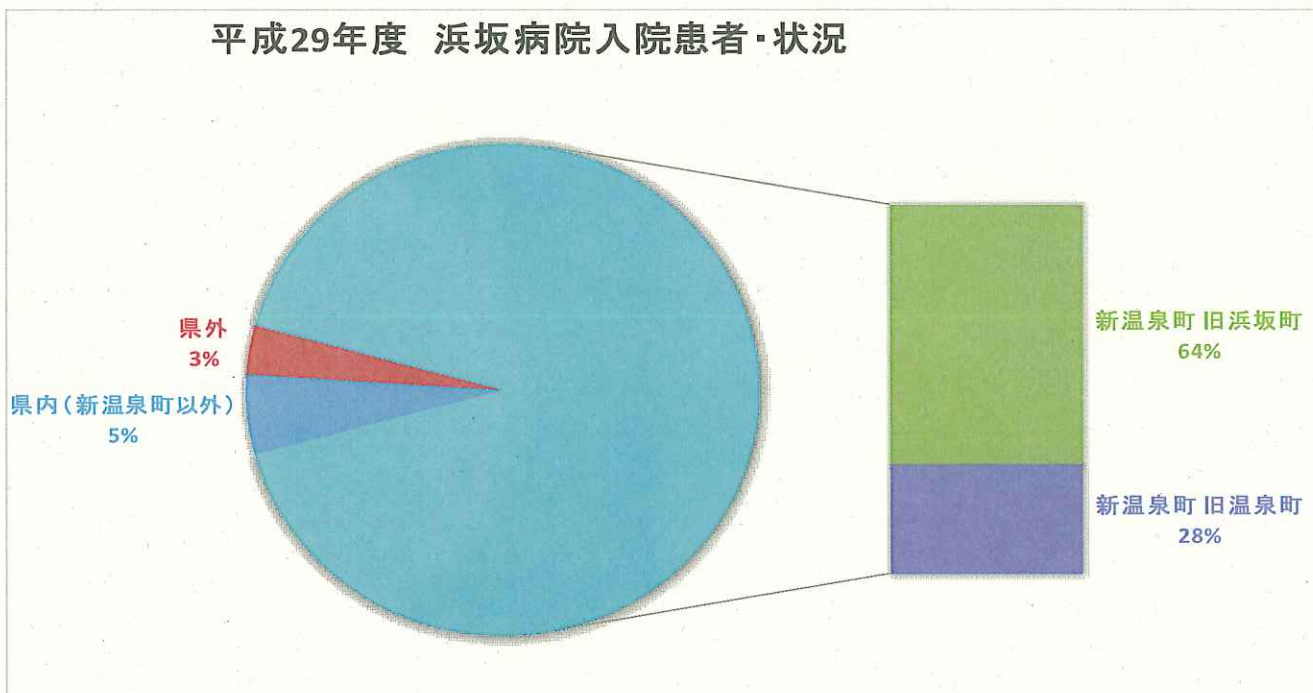
④入院患者の地域別利用状況

(平成29年度)浜坂病院・入院

		入院患者数(人)	割合(%)
県内(新温泉町以外)		589	5.3
県外		359	3.2
新温泉町	旧浜坂町	7,183	64.2
	旧温泉町	3,060	27.3
合計		11,191	100.0

(参考:香美町441人)

平成29年度 浜坂病院入院患者・状況



入院患者・診療科別・年齢層

(単位:人)

	総合診療科	整形外科	小児科	耳鼻咽喉科	リハビリ	泌尿器科	麻酔科	合計	割合(%)
0~40歳	17	0				0	0	17	0.15
41~50歳	9	0				0	0	9	0.08
51~60歳	122	14				0	0	136	1.22
61~65歳	214	49				14	0	277	2.48
66~70歳	269	85				0	0	354	3.16
71~80歳	1,699	483				21	3	2,206	19.71
81歳以上	6,692	1,426				30	44	8,192	73.20
合計	9,022	2,057	0	0	0	65	47	11,191	100.00
割合(%)	80.62	18.38	0.00	0.00	0.00	0.58	0.42	100.00	

◇入院患者の主な疾患

- ・ 高血圧症、・ 心不全、・ 尿路感染症、・ 糖尿病、・ 肺炎、
- ・ 鉄欠乏性貧血、・ 変形性膝関節症、・ 逆流性食道炎

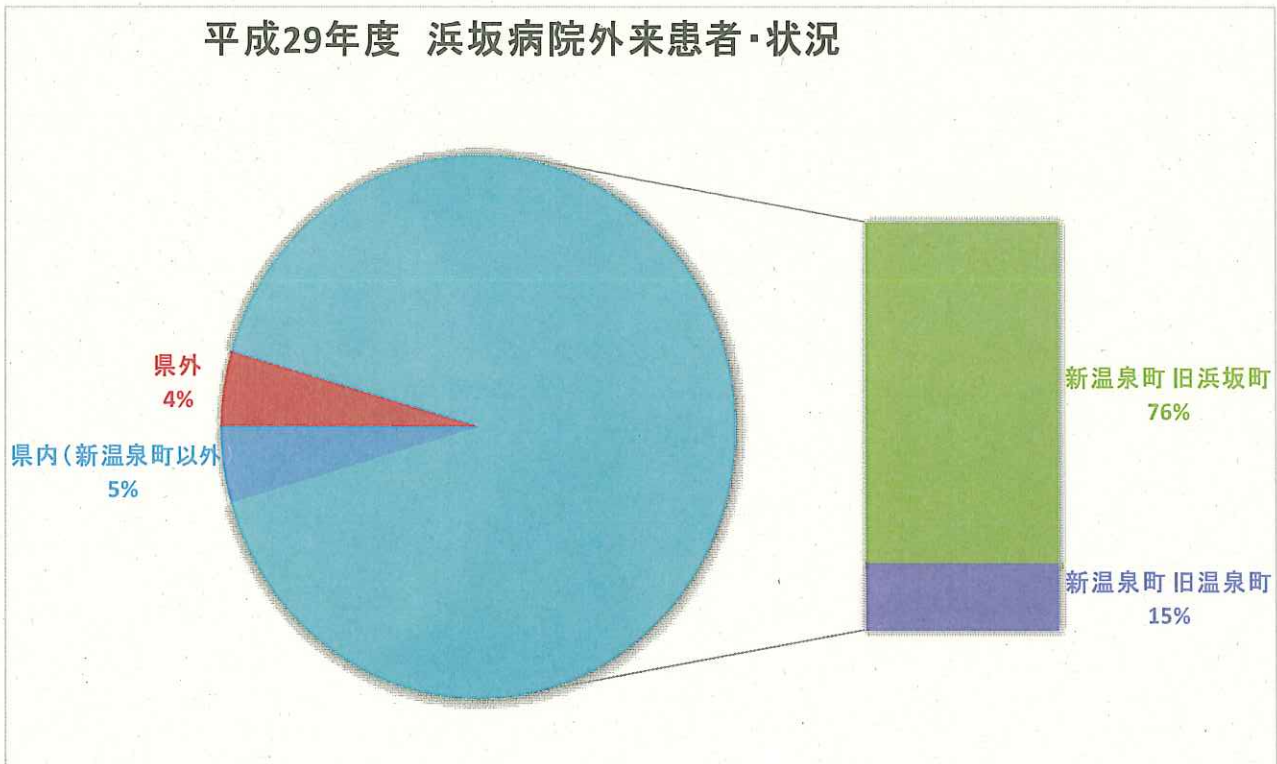
⑤外来患者の地域別利用状況

(平成29年度) 浜坂病院・外来

		入院患者数(人)	割合(%)
県内(新温泉町以外)		1,246	4.6
県外		1,210	4.4
新温泉町	旧浜坂町	20,772	76.1
	旧温泉町	4,057	14.9
合計		27,285	100.0

(参考: 香美町1,137人)

平成29年度 浜坂病院外来患者・状況



⑥浜坂病院病床利用率・医業収支・経常収支・純損益・繰入金の動向

	単位	H25	H26	H27	H28	H29
病床数	(床)	110	55	55	55	49
病床利用率	(%)	38.70	61.53	59.39	55.32	62.57
医業収入	(千円)	582,926	523,253	543,619	511,621	548,824
医業費用	(千円)	814,930	829,541	820,556	879,471	879,329
医業収支	(千円)	△ 232,004	△ 306,288	△ 276,937	△ 367,850	△ 330,505
経常収支	(千円)	△ 152,387	△ 244,552	△ 243,471	△ 320,583	△ 302,516
純損益	(千円)	△ 101,380	△ 551,539	△ 107,647	212,809	9,991
収益勘定繰入金	(千円)	291,679	596,991	356,826	693,048	489,085
資本勘定繰入金	(千円)	124,358	149,534	159,000	193,637	204,265
繰入金合計	(千円)	416,037	746,525	515,826	886,685	693,350

※平成30年1月から55床から49床へ
一般病床 33床
地域包括ケア病床 16床

⑦浜坂病院 経常収支比率・医業収支比率等の推移

	単位	H25	H26	H27	H28	H29	
1. 経常収支比率	経常収益	円	739,916,818	675,547,519	684,468,239	637,855,362	661,935,023
	経常費用	円	834,558,028	855,817,697	846,615,960	909,583,288	923,038,461
	経常収益/経常費用×100	%	88.66	78.94	80.85	70.13	71.71
2. 医業収支比率	医業収益	円	582,925,952	523,253,269	543,618,639	511,621,619	548,822,848
	医業費用	円	814,930,436	829,540,798	820,556,249	879,470,541	897,328,483
	医業収益/医業費用×100	%	71.53	63.08	66.25	58.17	61.16
3. 実質収益対経常費用比率	経常収益-他会計繰入金	円	529,610,638	509,583,619	506,476,903	475,144,153	512,834,791
	経常費用	円	834,558,028	855,817,697	846,615,960	909,583,288	923,038,461
	(経常収益-他会計繰入金)/経常費用×100	%	63.46	59.54	59.82	52.24	55.56
4. 流動比率	流動資産	円	143,121,844	267,210,194	289,262,454	197,883,479	311,730,208
	流動負債	円	881,765,787	873,180,476	867,786,827	498,843,572	486,960,120
	流動資産/流動負債×100	%	16.23	30.60	33.33	39.67	64.02
5. 病床利用率	年延入院患者数	人	15,538	12,352	11,923	11,106	11,191
	年延稼働病床数	床	20,075	20,075	20,130	20,075	17,885
	年延入院患者数/年延稼働病床数×100	%	77.40	61.53	59.23	55.32	62.57
6. 患者1人1日当り入院収入	入院収益	円	351,015,243	281,286,094	289,858,184	251,253,099	277,124,955
	年延入院患者数	人	15,538	12,352	11,923	11,106	11,191
	入院収益/年延入院患者数	円/人	22,591	22,773	24,311	22,623	24,763
7. 患者1人1日当り外来収入	外来収益	円	147,948,696	173,317,903	184,556,467	174,862,495	185,113,715
	年延外来患者数	人	24,163	24,707	24,801	25,241	27,285
	外来収益/年延外来患者数	円/人	6,123	7,015	7,441	6,928	6,784
8. 外来入院患者比率	年延外来患者数	人	24,163	24,707	24,801	25,241	27,285
	年延入院患者数	人	15,538	12,352	11,923	11,106	11,191
	年延外来患者数/年延入院患者数×100	%	155.51	200.02	208.01	227.27	243.81
9. 職員給与比率	給与費	円	419,546,412	429,447,411	445,896,607	464,481,618	516,615,295
	医業収益	円	582,925,952	523,253,269	543,618,639	511,621,619	548,822,848
	給与費/医業収益×100	%	71.97	82.07	82.02	90.79	94.13
10. 材料費比率	材料費	円	85,707,248	89,863,126	70,417,527	74,316,650	74,016,323
	医業収益	円	582,925,952	523,253,269	543,618,639	511,621,619	548,822,848
	材料費/医業収益×100	%	14.70	17.17	12.95	14.53	13.49

⑧浜坂病院 退院患者 行先別状況表 (平成 29 年度)

(単位:人)

H29	自宅	施設						病院			死亡	退院者計	退院者平均 在院日数	
		ささゆり	ゆむら	はまさか	やすらぎ	ありがとう	その他	県中	日赤	その他				
4月	16	7	1	1			1	3		2	3	34	10日	
5月	16	5	1	1	2		1		1	2	5	34	23日	
6月	15	11	1	1	1			1	1	3	8	42	24日	
7月	26	8	1	1	1				1	2	4	44	20日	
8月	26	9	1	4	1			1	1	1	9	53	22日	
9月	22	5	1	1	3			2	1	1	3	39	19日	
10月	24	8	1		1		1	1	1	1	9	47	20日	
11月	18	4	1	2				1	1	2	8	37	18日	
12月	29	4	1	1			1	2		3	7	48	25日	
1月	24	6	1	3	3		2	3	1		12	55	20日	
2月	21	7	3	2	1	1	2	2	1	2	8	50	20日	
3月	19	6	5	5					2	1	4	42	22日	
計	256	80	18	22	13	1	8	16	11	20	80	525	22日	
計	256							142				47	80	
割合	48.8%							27.0%				9.0%	15.2%	

⑨介護老人保健施設 ささゆり 入所者等の状況

平成30年4月30日 現在

(1)入所者の要介護度等

区分	入所者計(計)			要介護1			要介護2			要介護3			要介護4			要介護5		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
40歳 ~ 64歳	0	0	0			0			0			0			0			0
65歳 ~ 74歳	1	0	1			0			0	1		1			0			0
75歳 ~	13	26	39	1	6	7	4	11	15	5	5	10	2	3	5	1	1	2
合計	14	26	40	1	6	7	4	11	15	6	5	11	2	3	5	1	1	2

区分	入所者計	痴呆性老人判定基準						
		ランクなし	ランク I	ランク II	ランク III	ランク IV	ランク M	
要たきり度 判定基準	ランク J	3	0 (0)	2	1	0	0	0
	ランク A	23	1 (4)	8	10	0	0	0
	ランク B	14	0 (0)	8	5	1	0	0
	ランク C	0	0 (0)	0	0	0	0	0
	合計	40	1 (4)	0	0	0	0	0

※()は不明者

2 国の社会保障制度改革について

「医療から介護へ」「施設から在宅へ」のシフト

- ◇病院・病床機能の分化
 - ・急性期への資源集中、亜急性期、慢性期の機能強化
- ◇入院医療の効率化、外来受診の適正化
- ◇在宅診療の充実
 - ・在宅療養支援機能の強化、訪問看護の拡充
- ◇在宅介護の充実
 - ・地域包括ケアシステムの構築、要介護・重度化の予防

- ◇「病院完結型」から地域全体で治し、支える「地域完結型」に転換
- ◇急性期医療を中心に人的・物的資源を集中投入し、早期の家庭復帰・社会復帰
- ◇受け皿となる地域の病床や在宅医療・介護を充実

各病院が病床の医療機能（高度急性期、急性期、回復期、慢性期）等を報告し、都道府県が地域医療構想（地域の医療体制の将来のあるべき姿）を策定する。

平成 29 年度 兵庫県地域医療構想 公表

地域会議で協議・調整

基金による財政支援

知事の要請・勧告

バランスのとれた医療提供体制の実現

概ね 30 分以内に駆けつけられる圏域で、個人のニーズに応じて、医療・介護等の様々なサービスが適切に提供できる地域包括ケアシステムを構築

- ◇在宅医療の担い手を増やす
- ◇在宅での各種サービスの役割明確化や相互連携
- ◇生活支援や介護予防は地域事情に合わせたような需要に対応
- ◇地域密着型サービス（小規模多機能、定期巡回・随時訪問など）を拡大、在宅限界点を引上げ

「在宅生活」を中心に、社会基盤として住まいが提供され、必要な生活支援や介護・医療・予防のサービスが一体的に提供され、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができる状態

地域包括ケアシステムの実現

診療報酬・介護報酬による誘導

少子・高齢社会でも必要なサービスの提供を確保
「ほとんど在宅、ときどき入院」の実現

3 新温泉町の財政状況

【新温泉町の決算状況】

(単位：千円)

	歳入総額	歳出総額	形式収支	翌年度繰越財源	実質収支	単年度収支	積立金	繰上償還金	積立金取崩額	実質単年度収支
平成29年度	10,948,430	10,799,352	149,078	124,338	24,740	△ 492,061	2,239		163,000	△ 652,822
平成28年度	10,968,514	10,411,024	557,490	40,689	516,801	85,828	2,876		565,731	△ 477,027
平成27年度	10,928,581	10,454,396	474,185	43,212	430,973	396,943	3,323			400,266
平成26年度	10,523,165	10,434,511	88,654	54,624	34,030	△ 455,358	2,004			△ 453,354
平成25年度	11,334,190	10,707,828	626,362	136,974	489,388	39,186	561			39,747
平成24年度	10,403,140	9,903,085	500,055	49,853	450,202	134,394	416			134,810
平成23年度	10,380,289	9,999,414	380,875	65,067	315,808	△ 156,398	275			△ 156,123
平成22年度	11,007,781	10,447,005	560,776	88,570	472,206	412,136	115,288			527,424
平成21年度	10,697,980	10,551,137	146,843	86,773	60,070	27,265	117	2,248		29,630
平成20年度	8,987,627	8,850,344	137,283	104,478	32,805	△ 3,210	260	598	37,000	△ 39,352
平成19年度	9,968,565	9,910,675	57,890	21,875	36,015	△ 15,174		22,511		7,337
平成18年度	10,370,040	10,163,770	206,270	155,081	51,189	△ 284,407	12			△ 284,395

【新温泉町の収支見通し（一般財源ベース）】

経常収支が3億以上の赤字が継続した平成28、29年度の経営状況を前提とすると、平成36年度に実質赤字が生じることとなる。

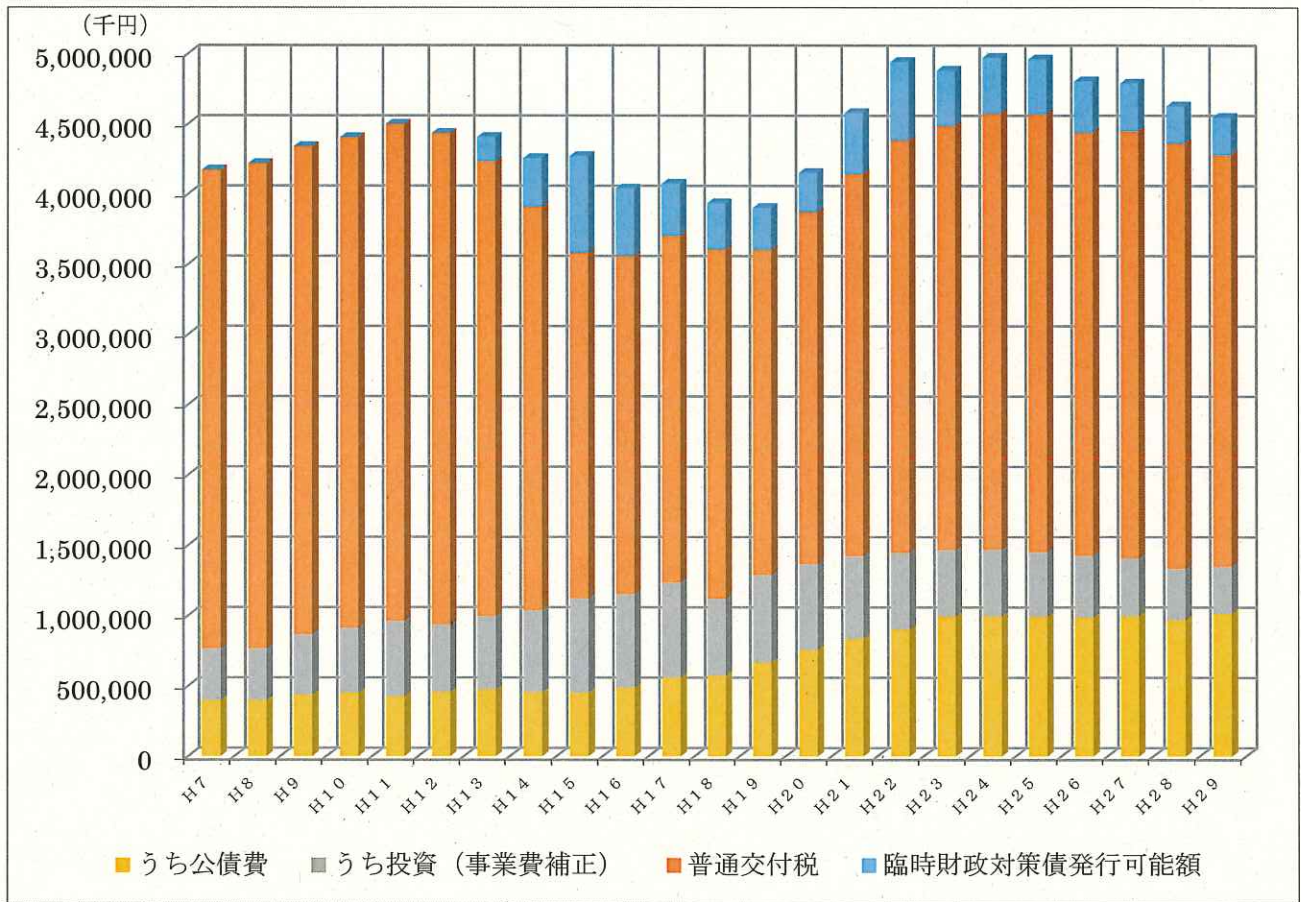
(単位：百万円)

	H28決算	H29決算	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36
歳入合計 A	7,648	7,620	6,861	6,767	6,995	6,890	6,822	6,709	6,728
地方税	1,409	1,414	1,392	1,379	1,363	1,365	1,366	1,363	1,339
地方交付税等	5,297	5,265	4,930	4,842	4,684	4,433	4,465	4,470	4,506
歳出合計 B	7,697	7,754	7,349	7,433	7,064	7,249	7,064	6,855	7,004
人件費	1,171	1,152	1,129	1,187	1,162	1,160	1,146	1,328	1,134
公債費	1,356	1,368	1,320	1,369	1,302	1,357	1,396	1,396	1,414
投資的経費	167	286	364	511	242	287	125	132	129
病院への繰出	887	693	797	621	608	623	630	653	670
財源不足額 C=A-B	▲ 49	▲ 134	▲ 488	▲ 666	▲ 69	▲ 359	▲ 242	▲ 146	▲ 276
基金取崩額 D	566	163	488	666	69	359	242	146	276
再差引き E=C+D	517	29	0	0	0	0	0	0	0
財政調整基金残高	2,119	2,218	1,730	1,064	995	636	394	248	▲ 28

※ 発生する病院の資金不足3.1億円を各年度で解消すると想定

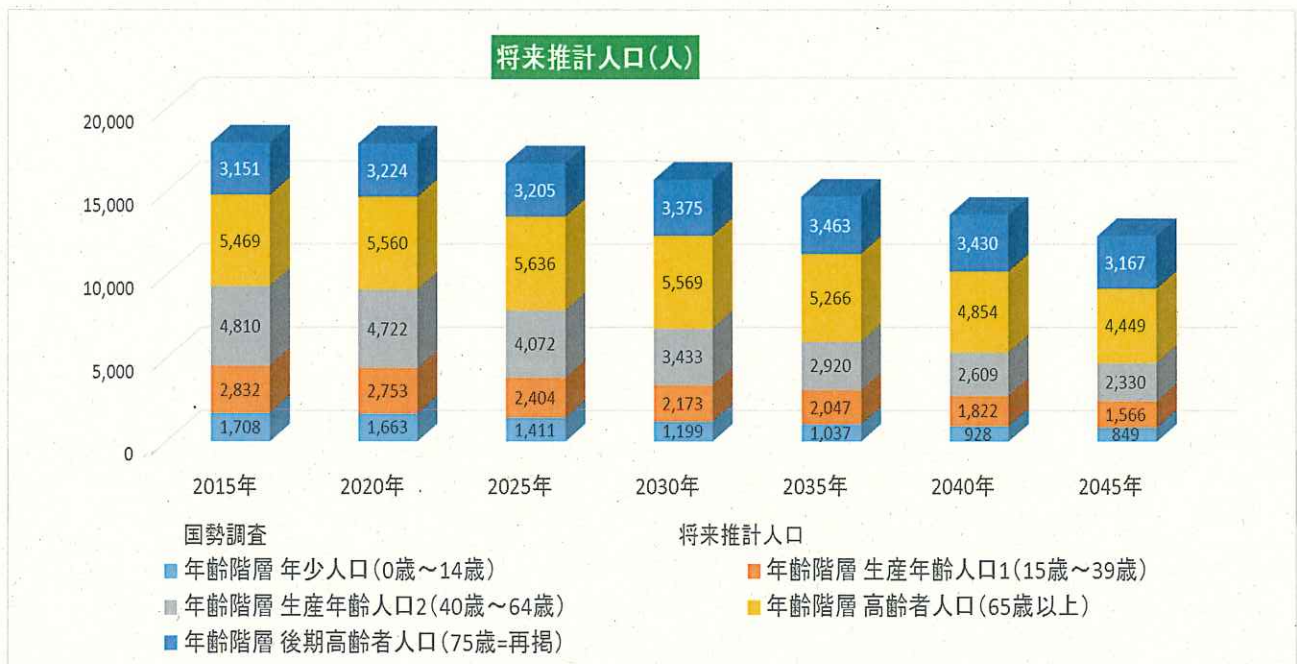
【参考2】実質的な普通交付税総額の推移<新温泉町>

普通交付税・臨時財政対策債の推移



4 新温泉町等の将来人口推計

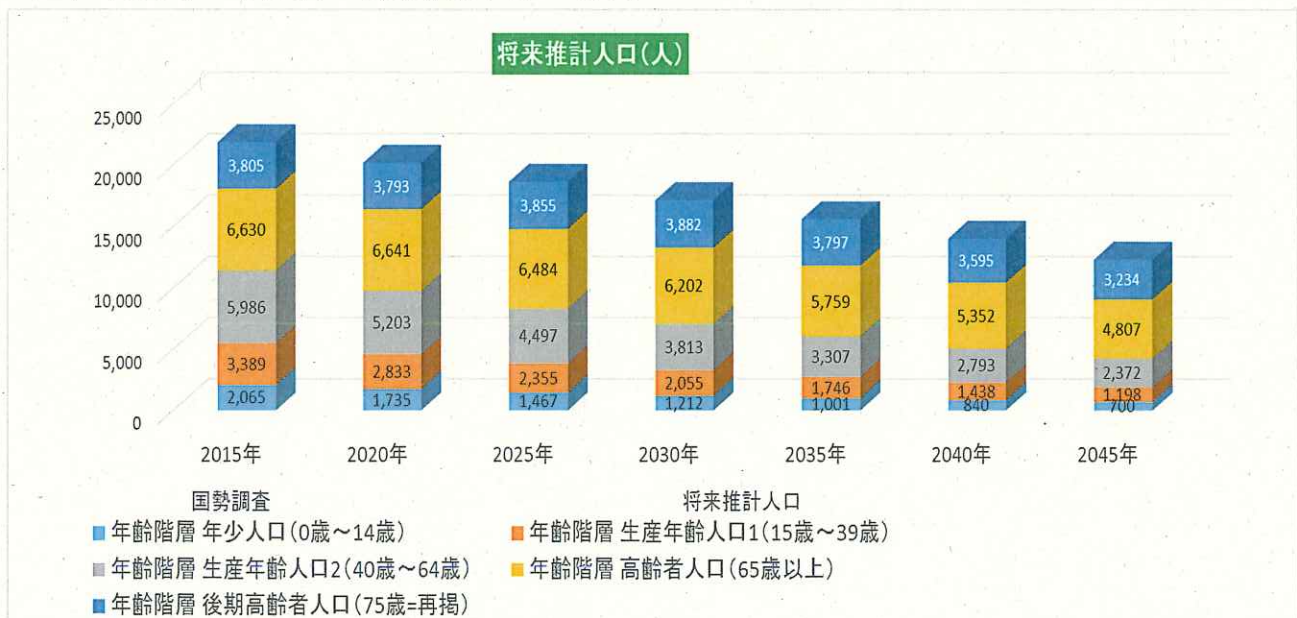
(1) 新温泉町の年齢別・将来推計人口の推移



※1 数値は地域医療情報システム JMAP より

※2 将来推計人口：国立社会保障・人口問題研究所（2018年3月推計）

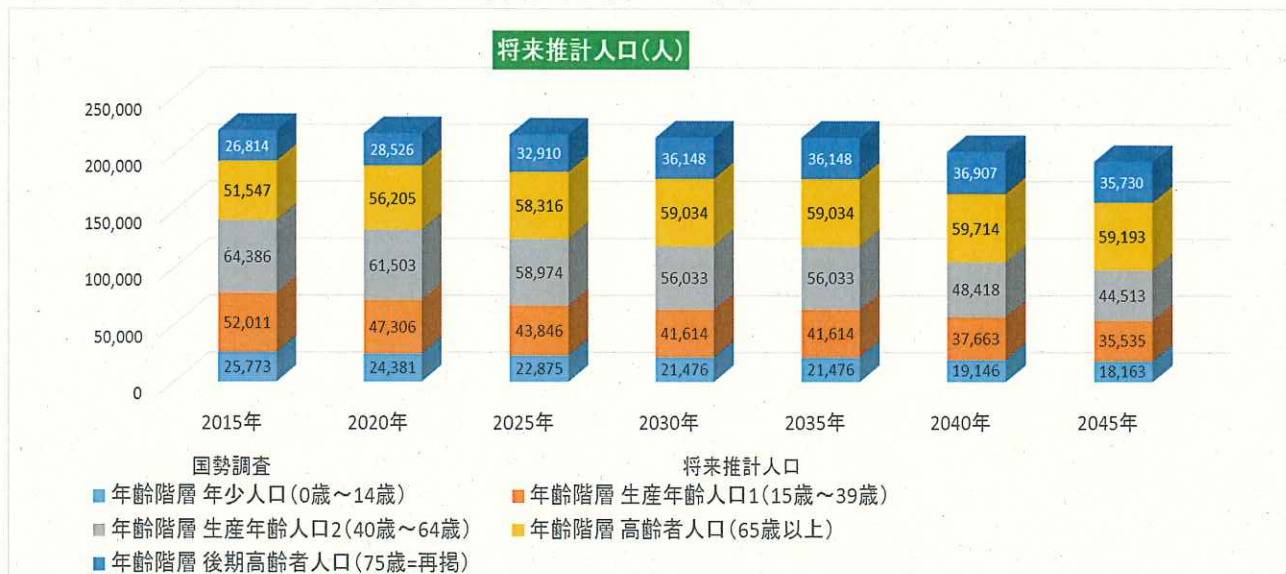
(2) 香美町の年齢別・将来推計人口の推移



※1 数値は地域医療情報システム JMAP より

※2 将来推計人口：国立社会保障・人口問題研究所（2018年3月推計）

(3) 鳥取県・鳥取市の年齢別・将来推計人口の推移



※1 数値は地域医療情報システム JMAP より

※2 将来推計人口：国立社会保障・人口問題研究所（2018年3月推計）

5 浜坂病院の今までの取り組みの紹介

(1) 兵庫県と神戸大学が主催する医学生（兵庫県養成医）などのセミナーを浜坂病院でも受ける。のこにより、浜坂病院のみならず新温泉町を見ていただく機会としている。



(2) 2018年から始まった専門医制度のため、県内の4つの公的病院と県内・外を含む2つの民間病院と専門医取得基幹病院の連携先病院として参加させていただいている。

(3) 県内・外の規模の大きな医療機関から初期臨床研修（地域医療研修）として（1ヶ月）実施



イ. 新体制による新たな取組

①救急の積極的な受入れ等

新体制となり、院長指示のもと救急の受入れにも積極的に取り組むこととしている。H29年4月は19件であったが、新年度(22日現在)は16件。1日5件という受入れ日もあり、救急隊から「積極的に受けてもらっている」と意見をいただいている。

②大学病院、基幹病院等との連携強化

- 4月21日(土) 美方郡医師会長に挨拶。
- 24日(火) 兵庫医科大学 新家理事長及び大城副理事長に挨拶。
- 25日(水) 町長とともに、鳥取県立中央病院池口院長に挨拶。
- 26日(木) 消防隊との懇親会開催。
- 5月 9日(水) 鳥取県立中央病院の院長・医療スタッフが浜坂病院を訪問。
- 24日(木) 浜坂病院医療スタッフが公立豊岡病院を訪問。

7 浜坂病院の財政状況

(1) 浜坂病院の財政状況

資金不足へ対応するため病院事業会計への一般会計負担額は、平成28年度は8.9億円(標準財政規模の13.9%)となった。新温泉町は人口減少に加え、合併特例措置の縮減により今後も地方交付税が減額されることから、引き続き厳しい状況が続く見込み。このため、町全体の財政運営からも病院事業の早期経営健全化が喫緊の課題である。

(2) 現状(標準財政規模:約64億円)

繰出金等の状況

(単位:百万円)

	H28	H29	摘要
繰出金	805	608	
基準内	135	130	
基準外	170	168	
通常	170	168	
特別	500	310	※ 緊急、改善対象額 (H28は一借の抑制措置)
資本勘定出資	82	85	
計	887	693	

(3) 病床利用率、入院患者の状況

入院患者の受入れにより病床利用率が50%から80%台にまで改善しています。本年3月から稼働の地域包括ケア病床導入で6床減(1床面積の関係で55床→49床)となりましたが、延べ入院患者数は次のとおり推移し、30年4月から増加しています。

(4) 地域へ出向く巡回講座を実施し、浜坂病院の紹介や健康講話会を開催



6 浜坂病院の新体制への移行について

(1) H30年度の浜坂病院の新体制

ア. 医師の診療体制 (6名→5名)

医師の診療体制は、県から養成医の派遣増 (1→2名) の支援、さいたま市民医療センターから1名の医師派遣を受け、若手医師が3名に増加した。

院長等の交代により新体制に移行したことから、新たな取組に着手している。

区 分	平成 29 年度	平成 30 年 4 月	備 考
院 長	麻酔科医	高木一光 (総合診療)	
診療部長	高木	—	
総合診療	内科医	県養成医	医師 8 年目
〃	県養成医	県養成医	医師 5 年目
〃	—	さいたま市民医療 C 派遣	医師 5 年目
〃	整形外科医	整形外科医	
〃	泌尿器科医	平成 30 年 6 月末まで	
計	6 名	5 名 (7 月から)	

※ 介護老人保健施設 (ささゆり) 施設長 : 30 歳女医が 7 月から就任

	H29. 4	H30. 7	増減	備 考
20~30 代	1 名	3 名	+ 2 名	兵庫県養成医 2 名 (32 歳) さいたま市民医療 S から家庭医療専門医専攻の医師 (28 歳)

※ 入院患者数の推移

(単位：人)

	入院患者数
平成26年度	12,352
平成27年度	11,923
平成28年度	11,106
平成29年度	11,191

※入院患者数の推移

(単位：人)

	入院患者数
29年4月～8月	4,592
30年4月～8月	6,087

イ. 過去5年間

4月～8月までの期間の売り上げ

(単位：百万円)

年 度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
入 院	125.2	103.4	99.4	107.3	169.8
外 来	70.8	74.0	72.2	75.3	76.3
その他医業	30.8	29.7	30.2	29.8	32.5
合 計	226.8	207.1	201.8	212.4	278.6

4月～8月の期間の平均単価の推移

(単位：円)

年 度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
入 院	22,296	24,289	21,601	23,373	27,889
外 来	6,657	7,067	6,800	6,639	7,066

ウ. 過去3年間の病院事業収支

(単位：百万円)

	27年度	28年度	29年度
1 病院事業収益 (A)	834	1,172	975
うち特別利益 (B)	150	500	310
2 病院事業費用 (C)	861	908	923
病院事業収支 (A) - (B) - (C)	▲177	▲236	▲258

※過去3年間の一般会計（特別利益）を除いた収支。

エ. 医業収支、繰出金等の状況

地域包括ケア病床の導入効果等もあり、H30年4～8月の医業収支は△22百万円（前年度同比+71百万円）と改善の兆しが見られます。

4月～8月の4ヶ月間の医業収益の状況

（単位：百万円）

	H28	H29	H30.4～8		②-①
			H29.4～8 ①	②	
病床数	55床	49床	55床	49床	△6床
病床利用率	55.3%	62.6%	54.6%	81.2%	26.6%
医業収入	512	549	212	279	67
医業費用	879	897	305	301	△4
医業収支	△367	△348	△93	△22	71

(4) 病院の財政状況を公表（病院経営健全化への取組）

平成29年度病院会計への繰入金の状況を議会に説明するとともに、住民に広報誌等（広報誌は10月号）により公表した。

併せて、平成30年度第1四半期（4～8月）を中心に病院における経営健全化の取組みと経営改善の状況を説明した。

※ 別紙参照

8 病院の経営健全化の取り組み

H30年度、病院長はじめ医療スタッフが変更したこの機を捉えて、次の点を目標と定め、病院・町が一体となって経営健全化に取り組んでいく。

(1) 病床利用率の改善（具体的な取組み）

ア. 消防隊との連携による救急患者の獲得

- ・救急担当医を定め、外来診療を中断することなく救急患者を受入れ
- ・救急車へ医師ができる限り同乗し近隣医療機関に搬送するよう努めている。

※救急搬送件数（H28実績）：739人中、528人が管外搬送

- イ. 病診連携や病院連携による紹介率・逆紹介率の向上
医療機関毎に集計し、各医療機関の紹介率・逆紹介率の向上を図る。
※H28実績：紹介率（13.4%）、逆紹介率（-）
- ウ. ベッドコントロールの強化（基幹病院との連携によるスキルアップ）

(参考) 大病院では、①検査等で長時間の待ち時間が必要、②選定療養費が別途必要となる等から、浜坂病院での受診促進を図り、患者の利便性確保を図る。

(2) 収益増の目標

- ア. 看護師の訪問看護・PT訪問リハの実施
- イ. 服薬指導の徹底
- ウ. 入院前・退院前等のセット検査の見直し

(3) 診療単価の向上（診療報酬改定への的確な対応）

- ア. 地域包括ケア病床の活用
- イ. ジェネリックの活用（差益のアップ）
- ウ. 医師・看護師・医療スタッフ等の連携による診療報酬の確保の徹底
（※医事委託の活用。医師の協力を得てレセプト点検を強化）

(4) 医業収益に対する給与比率の改善

- ア. 県養成医師の配置要望等による若手医師の確保・医師の新陳代謝
- イ. 看護師、コメディカル、医事担当職員等の適正配置

町政のうごきから

新体制移行の浜坂病院

今後の目指すべき医療機能について



▽問合せ 公立浜坂病院 電話 82-1611

医師の診療体制 (医師数・6名↓5名)

高木新院長の就任等、4月から浜坂病院は新体制に移行しました。診療体制は県養成医の派遣増(1名↓2名)もあり、高度医療現場で経験のある若手医師が増加(2名↓3名)。

鳥取県立中央病院、公立豊岡病院等からの紹介患者を積極的に受入れています。

▼若手医師(3名)

◆県養成医(30代・2名)：公立豊岡病院、赤穂市民病院から
◆20代医師(1名)：家庭医療専門医取得のため、さいたま市民医療センターから

病院経営健全化等の状況

病床利用率、入院患者の状況

入院患者の受入れにより病床利用率が50%から80%台にまで改善しています。本年3月から稼働の地域包括ケア病床導入で6病床減(1床面積の関係で55床↓49床)となりましたが、延べ入院患者数は次のとおり推移し、4月から増加しています。

【入院患者数の推移①】

(単位：人)	
	入院患者数
平成26年度	12,352
平成27年度	11,923
平成28年度	11,106
平成29年度	11,191

【入院患者数の推移②】

(単位：人)	
	入院患者数
平成29年4月～8月	4,592
平成30年4月～8月	6,087

医業収支、繰出金等の状況

地域包括ケア病床の導入効果等もあり、平成30年4～8月の医業収支は△2200万円(前年度同期比7100万円の増)と改善の兆しが見られます。

【医業収支の推移】

	(単位：百万円)				
	H28	H29	H29.4～8月(A)	H30.4～8月(B)	(B)-(A)
病床数	55床	49床	55床	49床	△6床
病床利用率	55.3%	62.6%	54.6%	81.2%	26.6%
医業収入	512	549	212	279	67
医業費用	879	897	305	301	△4
医業収支	△367	△348	△93	△22	71

町政のうごきから

看護師・准看護師 急募!

～夜勤手当の引上げ等、待遇改善に取り組んでいます～
※詳しくは、公立浜坂病院へお問い合わせください。

【過去5年度の4月～8月の期間の平均単価の推移】

(単位：円)					
	H26	H27	H28	H29	H30
入院	22,296	24,289	21,601	23,373	27,889
外来	6,657	7,067	6,800	6,639	7,066

【過去5年度の4月～8月の期間の売り上げ推移】

(単位：百万円)					
	H26	H27	H28	H29	H30
入院	125.2	103.4	99.4	107.3	169.8
外来	70.8	74.0	72.2	75.3	76.3
その他医業	30.8	29.7	30.2	29.8	32.5
合計	226.8	207.1	201.8	212.4	278.6

新院長の新たな取組

近隣病院との医療連携

浜坂病院では、内科的疾患のほとんどを総合診療科で初期診断・治療を行っています。専門医の診断が必要な場合は、鳥取県立中央病院や公立豊岡病院等に紹介するとともに、逆にこれらの病院からの紹介による患者受入れも積極的に行っています。

救急患者の受入れ

救急担当医を決め、救急患者の受入れ体制を整えるとともに、消防署員との情報交換を密にし、対応可能な患者受入れを図っています。

地域包括ケア病床の活用

急性期を脱した(治療が安定した)患者を受入れている地域包括ケア病床を活用して、在宅や介護施設への復帰に向けた医療や支援を行っています。

医師確保への取組

①地元出身医師へのアプローチ
②初期臨床研修医の受入れ
6つの大きな病院から地域医療

浜坂病院のあり方検討委員会の設置・検討

浜坂病院は築36年経過している。町の一般会計は、浜坂病院に平成28年度は8億8700万円、平成29年度は6億9300万円の負担をしています。今後、毎年同様の負担をしていくことは困難です。一方、平成30年4月から8月までの5か月経過した時点で、浜坂病院の医業収支をみると、前年度同期比で7100万円改善しています。

③兵庫県養成医学生の受入れ(夏季セミナー)

浜坂病院の見学、地域医療の体感(訪問診療等、住民との交流)の研修先として、初期臨床研修医を1か月間輪番で受入れています。

これらを踏まえ、今後の病床機能や施設整備(改修計画)等を含めて検討する必要があります。10月から「浜坂病院のあり方検討委員会」を設置して検討することとします。

◆主な検討内容
◆浜坂病院の現状と課題の整理(診療状況、医療スタッフ、財政状況)

浜坂病院における喫緊の課題

①救急患者や基幹病院からの患者受入れ・在宅復帰までの流れの確立
②看護師、薬剤師をはじめとする医療スタッフの確保・スキルアップ等

政状況) 必要とされる医療機能・診療内容(現状と今後の見込み) 病院連携、医療と介護の連携のあり方(急性期から回復期、在宅復帰まで) 病床機能、施設整備のあり方

今後も、新体制に移行した浜坂病院の取組について、町民の皆さんにお知らせしていきますので、ご理解をいただきますようお願いいたします。 また、浜坂病院が地域の皆さんから愛され、急性期から回復期、在宅復帰までを支援していく役割を果たせるよう頑張りますので、ご支援をいただきますようお願いいたします。



JR山陰本線

福富

対田

大庭保育所

公立
浜坂病院

浜坂町
保健センター

浜坂町
介護老人保健施設
ささゆり

二日市

二日市

戸田

遊